

函館工業高等専門学校物質工学科教員の公募

1. 職名及び人員： 助教または准教授 1名
2. 所属学科： 物質工学科
3. 専門分野： 農芸化学および関連分野（植物生産ならびに分子生物学に関する素養を有する方が望ましい）
4. 主な担当教科： 基礎有機化学演習、環境汚染分析法、物質工学創造実験、その他物質工学科および専攻科関係の講義と学生実験、卒業研究(本科)、特別研究(専攻科)など。
なお、H25年度から農工連携を特徴とした新学科（物質環境工学科）に再編され、農工連携関連の教育を、植物病理学や土壤生態学などの農芸化学分野で支える科目を担当していただく予定。
5. 応募資格：高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有しつつ次の各号に該当する方。
 - (1) 女性に限る（男女雇用機会均等法第8条に該当。女性教員の割合が相当程度少ない現状を積極的に改善するための措置として女性に限定した採用を行うもの）
 - (2) 高専における教育、研究および学生指導（学級担任、寮生指導、課外活動等）と学校運営に理解と熱意のある方
 - (3) 博士の学位または技術士の資格を有する方（採用予定日までに取得見込みの方を含む）
 - (4) 共同研究、公開講座、生涯学習等地域貢献に意欲のある方
6. 採用予定日：平成24年7月1日以降できるだけ早い時期
7. 応募期限： 平成24年5月31日（木）必着
8. 提出書類：
 - (1) 履歴書(本校様式、写真貼付)
 - (2) 研究業績目録（本校様式）
 - (3) 研究業績概要（A4、1200字以内で、これまでの研究業績全般について記述のこと。書式自由）
 - (4) 主要論文3編の別刷（コピーでも可）各3部
 - (5) 教育、学生指導および管理運営等に関する貢献及び経験（本校様式）
 - (6) 着任後の教育、研究、学生指導等に関する抱負（A4、2000字以内、書式自由）
 - (7) 推薦書1通または照会可能な方（氏名、所属、住所、電話、FAX・E-mailアドレス等）
2名
- ※ (1), (2) および (5) の書式は、下記公募のホームページからダウンロードできます。
9. 問合せ先：

〒042-8501 函館市戸倉町14番1号
函館工業高等専門学校 物質工学科主任 鹿野 弘二
TEL&FAX: 0138(59)6461(ダイヤルイン), E-mail:shikano@hakodate-ct.ac.jp
高専は業務内容において大学と異なる点がありますので、十分ご理解の上ご応募下さい。
なお、本校の概要、業務内容および公募についての詳細は下記ホームページをご覧下さい。応募書式は、ホームページからダウンロードできます。
本校ホームページ：<http://www.hakodate-ct.ac.jp/>
公募ホームページ：<http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-c/koubo.htm>
- ※ 独立行政法人化により、地方公務員からの応募の場合は、従前の取扱いとは異なります。退職手当、賞与、休暇等については、民間企業等からの採用と同様の取扱いとなりますので、特に御注意下さい。
10. 応募書類送付先：

〒042-8501 函館市戸倉町14番1号
函館工業高等専門学校 学校長 岩熊 敏夫
書類提出に関する連絡先：函館工業高等専門学校 総務課総務事務グループ（人事担当）
TEL: 0138(59)6313(ダイヤルイン), FAX: 0138(59)6310
- ※ 封筒の表に「物質工学科教員応募書類在中」と朱書きの上、書留で郵送願います。
11. 選考方法：
 - (1) 書類審査
 - (2) 面接（書類審査後、連絡致します。なお面接のための旅費は自己負担となります。）

函館高専の教員が携わる校務内容の概略

現在、わが国の高等教育機関においては大きな変革の波が押し寄せており、本校もその只中にいて、新たな生まれ変わりを果たすべく全校あげて取り組んでいます。平成16年4月に国立高専は国立大学と同時に独立行政法人化されました。国立大学と同様、教職員の身分は非公務員型ですが、高専の場合は通則法による全国51高専を一法人とする独立法人となっています。また、平成16年度から本校では本科(5年)に加えて専攻科(2年)が開設され、本科1000人と専攻科40人の定員を持つ高等教育機関となりました。

高専は、その教育目標や学生の年齢層(本科:15~20歳、専攻科:20~22歳)の幅広さなどから、大学や高等学校とは本質的に異なる点があります。高専の教員は、教育、研究、学生の生活指導などの全てに対して情熱を持って積極的に努力する姿勢が求められます。ここでは、函館高専の教員の校務について、認識をさらに深めていただくために、その主なものを記します。

(1) 授業

物質工学科教員の担当授業時数は、本科における講義が週8~10時間程度、実験実習や卒業研究などが週10~12時間程度になります。さらに、専攻科の講義や実験実習などがこれに加わります。定期試験は年4回あり、前期末と学年末には成績不振学生に対して特別指導を行うなど、全員合格を目指して指導する必要があります。実験実習科目に関しては、実験指導とレポート添削指導が非常に重要です。また、年度末などに学生による授業評価を受け、教育方法の改善に継続的に取り組むことが求められています。

(2) 卒業研究・特別研究指導

本科4年生では物質工学創造実験という科目的プレ卒研がスタートし、5年生での卒業研究へつながります。卒業研究は、本科における教育の集大成として非常に重要な役割を持ち、また、教員と学生の密接なつながりの中で成り立つ科目ですので、よりいっそう教員の指導力が要求されます。教員一人あたり2~5名の学生を指導します。また、専攻科生に対しては、本科の卒業研究に相当する特別研究があり、教員一人あたり1~3名の学生を担当します。特別研究では、研究成果をベースに学位授与機構への申請手続きなども、担当教員が指導することになります。

(3) 研究

高専の教員は、教育面や学校運営への参画のみならず、研究面での業績も求められます。研究に対する意欲的な姿勢と成果が学校全体の教育研究面の活性化を促し、さらには地域社会への貢献につながることが期待されています。

(4) 学級担任

物質工学科の教員には、主に第3~第5学年の学級担任をしていただくことになります。学級担任は、一学級40人程度の学生への勉学や生活指導など、学生生活全般にわたるきめ細かな指導が強く求められます。例えば、高等学校と同様に、毎日、教室清掃の指導がありますし、体育祭や高専祭など各種行事での指導、学生への個人面接や父母との懇談なども重要な職務となっています。また、4年生については学外実習の指導、見学旅行の引率指導、5年生については就職・進学といった進路指導があります。

(5) 各種委員会

本校には、教務委員会、学生委員会、寮務委員会をはじめ、各種の委員会があります。学級担任との兼務あるいは複数の委員会に所属することもあります。委員会に所属した場合には、多岐にわたる仕事をこなすことが求められます。例えば、寮務委員会は月一度程度の宿直に加えて、学寮内の巡回、寮生の日常生活の指導、寮での各種行事・寮生会所属の各委員会活動の指導など、多数の仕事があります。

(6) クラブ顧問

クラブ顧問としての日常的な指導をはじめ、運動系の場合には、高専体育大会(地区大会・全国大会)の運営や高体連などの各種大会および練習試合の引率、合宿時の指導などがあります。また、文科系でも、ロボットコンテストでは夜間残留時の監督など特別の体制が組まれることがあります。

(7) 学寮の宿直

本校では、原則として全教員に学寮の宿直と日直(日直は土・日・祝日のみ)が割り当てられます。寮務委員以外は年数回の割り当てですが、女子寮も設置されており女性教員による宿直もあります。200

名近い男女寮生を指導するこの職務は、本校教員の重要な教育業務の一つとされております。

(8) 地域貢献

本校では、共同研究、受託研究、公開講座、出前講座など様々な形で地域連携活動を展開しています。地域社会からも様々な形で本校に対する要望が寄せられます。地域連携活動が学生教育へ及ぼす効果に加え、地域に根ざした高専としての存在価値を高めるためにも、高専教員には積極的に地域に対して貢献する姿勢が要求されます。

(9) 学科会議と教員会議

1～2月に1回のペースで、学科会議と教員会議が開催されます。学科会議は、学科内外の情報交換、学科行事の提案、学校運営に対する学科意見の集約など重要な会議です。教員会議は、全教員による学校全体にかかわる課題検討や報告を行う会議です。